

日刊 動労千葉

85. 10. 31

No. 2078

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労働者をみくびる中曾根に 怒りと憎しみの反撃を

（1/26）新小岩支部大会開かる

新小岩支部第八回定期大会は、十一月二十六日、十二時より新小岩機関区講習室において七十二名が結集し開催された。

労働者をみくびる中曾根に 反撃くわえるとき

— 松崎 支部長 —

松本親夫執行委員の開会のあいさつのち、議長に佐藤日出男代議員を選出し議事に入った。

松崎支部長は「今、反動中曾根はやりたい放題の事をやっている。こうした労働者をみくびったやり方に我々は反撃にたちあがらなければならぬ。『分割・民営化』阻止を闘っていく事は大変な事だが、まず我々がその気になる事、十一月ストライキ貫徹に向け真剣な討論をしよう」と今大会の意義を訴えた。

つづいて来賓の葛飾区労協の梯氏、社会党の石井みさお区議会議員の挨拶をうけたのち、本部を代表して中野委員長が「『7・26答申』の本当のねらいを見さえ、今こそ石の団結—鉄の団結が必要である」と組合員の決起を呼びかけた。

全国の闘う仲間からの檄電が紹介された後、一般経過報告、会計報告、運動方針案、予算案が一括提案され、質疑に入った。

実力の反撃こそが 貨物職場の活路だ

代議員・傍聴者からは、
① 今、職場は暗い。人格をも破壊する攻撃に対し怒りと憎しみをもって打ちあがるべきだ。

② 色々な攻撃の波にのまれてしまっている。一致団結して闘うべきだ。



13年間の支部指導をやりぬき、後任にバトンタッチした松崎前支部長（左側）

③ 青年部は週三回の機関紙を発行している。これからも支部の最先頭で闘う。
④ 本区、派出の連絡体制を密にしてほしい。

等が出され、支部執行部と本部より「貨物支部が生き残る道は『民営・分割化』粉碎以外にない。ストライキを軸とする。実力闘争で首切りの元凶を叩きつぶそう」と答弁をうけて討論のまとめとし、満場一致で「方針」を確認した。

つづいて、新旧役員交代があり、永きにわたり支部を指導された松崎支部長の退任のあいさつ、新執行部を代表して関豊（せきゆたか）新支部長より「十三年間の永きにわたって松崎支部長が守ってきたくれた支部を、我々はより一層の団結を固めて引き続き守っていく。私はその最先頭で闘いぬく」との決意表明をうけ、組合歌合唱、団結ガンバロー三唱をもつて成功裡に終了した。

「分割・民営化」—十万人首切り—貨物全廃攻撃を必ず粉碎するために十一月スト貫徹にむけ、団結して闘いぬこう。

大会で選出された新四役

支部長	関 豊（機関士・47）
副支部長	若林 寛（機関士・48）
書記長	清水 匠（事務係・30）
書記次長	的場 正和（機関士・34）
（財政部長）	

みんなで参加 団結祭典 11月30日 9時～



理不尽・凶暴の一語につきる「貨物全廃攻撃」と真正面に対決して闘った。大会で選出された新執行部四役。決意をのべる際、新支部長（左端）